

福島市に根付いた「とっておきの音楽祭」

実を結んだ福島酸素株式会社・伊藤俊一社長の想い

2001年に仙台市で誕生し、全国各地に広がっている「とっておきの音楽祭」は、障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで、「心のバリアフリー」を目指す音楽祭です。この音楽祭が東日本大震災で大きな被害を受けた福島でも開催され、今年で3回目を迎えます。

「とっておきの音楽祭 ふくしま」の実行委員長として先頭に立って牽引している福島酸素株式会社の伊藤俊一社長にお話を伺いました。

福島酸素株式会社 代表取締役社長

伊藤 俊一さん



お嬢さんの歌好きが引き合わせた音楽祭

「とっておきの音楽祭」を福島市で開始しよう、と考えられたのは、何がきっかけだったのでしょうか。

きっかけは私の娘が仙台で「とっておきの音楽祭」に出演し、私がそれを見に行ったことです。高校時代から歌や演劇が好きだった娘は、高校の思い出作りにと参加したオーディション番組で知り合った音楽プロデューサーの誘いで、卒業後に仙台に移って音楽活動を始めていました。娘から仙台のイベントで歌うという連絡があったので出かけたのが、いま福島で私たちが取り組んでいる「とっておきの音楽祭」だったのです。娘のプロデュースをしている人がこの音楽祭の副実行委員長

おきの音楽祭 ふくしま2012」開催にこぎつけました。

今年は6会場でミュージシャン300人が参加

「とっておきの音楽祭」は回を重ねるごと参加ミュージシャンが増え、会場数も増えて発展していますね。

2012年の第1回は3会場、昨年の第2回が5会場でしたが、今年は6会場に増やしました。ミュージシャンの参加希望も毎年増えてきていて、今年も募集開始早々に締め切るといった状態です。

大震災を乗り越えるためにも開催を決意

音楽会の開催に向けて始動したとたんの東日本大震災。開催にはあまりにもハードルが高かったのではないのでしょうか。

当時、私は中小企業家同友会という経済団体の福島地区の会長でした。そこで同友会の仲間、「とっておきの音楽祭」開催の相談を持ちかけましたが、結果的には同友会の活動としてはなじまない、資金的にも難しいということで、同友会活動とは切り離して考えようということになりました。

当時の福島では「とっておきの音楽祭」はほとんど知られていませんでしたので、まずトライアルでそれらしいことをやってみようということになりました。2011年の初めのことです。そんなことを話している最中にあの東日本大震災が起きてしまったのです。

ストリート音楽祭は、大空の下で街中に音楽があふれているイメージなのに、放射線の影響でできるだけ



だったということで、娘もスタッフとしてお手伝いをしながら歌っていました。仙台市は定禅寺ジャズフェスティバルをはじめ、仙台クラシックフェスティバル、仙台ゴスペルフェスティバルなど、1年中どこかで音楽祭があるというほどの音楽都市として知られています。「とっておきの音楽祭」も市民が主催する、仙台生まれの音楽祭です。とくに、この音楽祭は障害を持った人たちがメインで、健常者も一緒に街の中のいたるところで音楽を一日中奏でるといふ特長あるイベントです。この音楽祭を見たときにそのことが強く印象に残り、その後、事務局を訪ね「とっておきの音楽祭」を福島市でやりたい。できますかね」と尋ねると「できますよ」と言われ、よしやるぞ！と心に決めました。

「とっておきの音楽祭」の開催に必要な資金や開催準備・運営を考えると一人の手には余ります。福島市でやる！と決めてからおよそ2年、迷っていました。いよいよやるぞと立ち上がり、動き始めた伊藤社長の出鼻をくじくような災害が東北地方を襲い、未曾有の被害をもたらしました。東日本大震災

2014年9月23日(火)

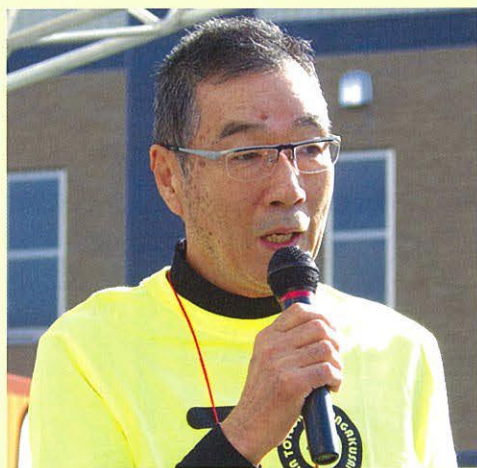
「とっておきの音楽祭 in 福島2014」が 開催されました!

当日は、開催3回目にして初めての好天にも恵まれ、
過去最多のお客様がお来場されました。

当日のパンフレット。合い言葉は
「みんなちがってみんないい」



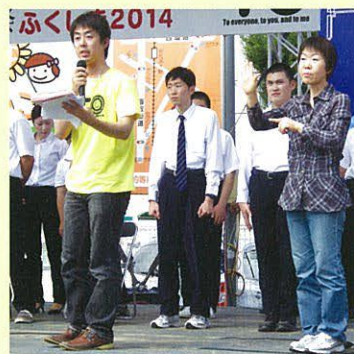
開催に向けて尽力されたスタッフのみなさん



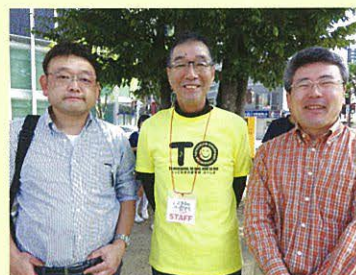
スタッフミーティングでご挨拶する伊藤社長



音楽祭開催のきっかけとなった伊藤社長の三女、
Carocoさんのステージ



各ステージには手話通訳が入る



伊藤社長、大陽日酸郡山支店の志村、藤川の
スリーショット



メインステージで、各会場の司会者をご紹介



福島県立大笹生養護学校のみなさんによる
ステージ



聴力障害者会&やまびこ会の
みなさんは手話ソングを披露



フィナーレでは、テーマソング「オハイエ」を合唱



今回は6会場にて開催

娘は相変わらず月に3〜4回の
ライブハウスのイベントなど、音楽にかか
り続けています。福島市の「とっ
とておきの音楽祭」には第1回からミュー
ジシャンとして必ず参加してくれてい
ます。いまでは私の同業者の社長が
結成しているバンドとのコラボのショー
は、福島市の「とっ
とておきの音楽祭」の
「フィナーレ」にはなくてはならない
存在になっています。

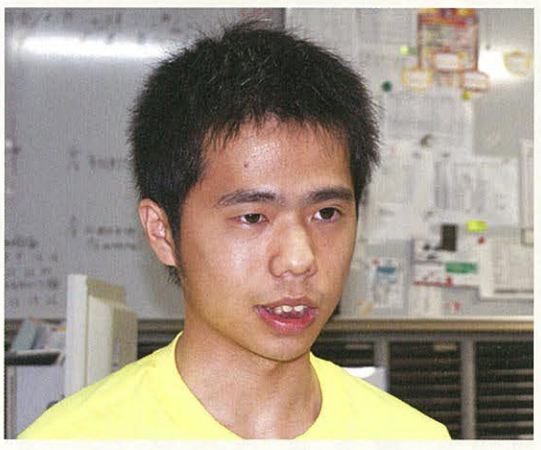
6会場を運営する事務局スタッフ
は全員が手弁当のボランティアの方
々で約70名。さらに会場の警備員
などが加わります。中小企業家
同友会の福島地区では443の登録
会社があり、その中にはイベント企画
やデザインなどの会社があります。そうい
う会社が音楽祭の企画や会場運営、
プログラムなどのパンフレットの制作
などをボランティアで担当してくれて
います。

**秋の到来を告げる
「とっ
とておきの音楽祭」に**

まもなく第3回目の「とっ
とておきの
音楽祭」がやってきました。今後の抱負
をお聞かせください。

「とっ
とておきの音楽祭」は第1回
以来、毎年9月23日の秋分の日に関
してきました。これは、この音楽祭を
市民の年間行事の一つとして定着させ
たいという思いがこめられています。
福島市には通称「わらじ祭り」と言わ
れる信夫三山眺まいりや、福島稲荷
神社の秋の例大祭などがありますが、
他の都市に比べれば少なく、文化的な
イベントはほとんどありませんでした。
そこで、市民の誰もが参加して楽し
むことができる文化イベントとして
「とっ
とておきの音楽祭」を年間のイベ
ントに定着させたいと考えたわけです。
夏が終って「秋分の日」に近づくと、
まもなく「とっ
とておきの音楽祭」と
誰もが待ち望むようになってくれたら
うれしいですね。

実行委員事務局 武田さんにもお話を伺いました。 自分の仕事はたまってしまっていますが...



総務部 **武田 輝**さん
今年で入社3年目、20歳です。入社した時から音楽祭事務
を手伝い、昨年からは本格的に事務局のお仕事をさせていた
だいています。仕事の内容は、音楽祭の協賛金の管理、運営に
必要な資金の出し入れ、参加ミュージシャンの受付や連絡、
ボランティア名簿の整理などいろいろとあります。今年
は実行委員長の伊藤社長が多忙で不在が多く、部長に相談をしながら、
進行しています。
本職は総務事務です。でもこの時期は音楽祭で手一杯。
本業の方が遅れ遅れの状況です。

企業の社会性の中に 身を置いている実感

取締役総務部長 **高橋 秀毅**さん

武田は「とっ
とておきの音楽祭」事務局の仕事を通じて、外部との対応が素晴らしく
良くなっています。それはそのまま取引先との対応にも現れています。本人は忙し
く大変ですが、この機会を活かしてほしいと思います。また、会社として「とっ
とておきの音楽祭」の事務局としてのお手伝いは、企業の社会性が問われる時代の中に自分
たちが身を置き始めていることに気付くきっかけになっていると思います。それが「とっ
とておきの音楽祭」に関わったわが社と従業員の、唯一で最大のメリットだと思っています。